

第 198 回 新国立競技場周辺の銅像（秩父宮像、岸清一像など）

筆者：林 久治（記載：2022 年 8 月 10 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\)のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

この頃、私は第 4 回目の予防接種を予約し、7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めた。娘から「今月は、大阪に来るのを見合わせたら」と言われたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

私が大阪行きを予定していた 7 月の 3 連休後、3 人の孫達全員が陽性になってしまった。第 7 波は、いよいよ身近まで押し寄せて来たのであった。幸い、症状は軽く、上下の孫は 1 日だけ 38℃ の発熱があっただけで、中の孫は陽性ながら無症状であった。彼らの両親は陰性であった。丁度その頃に、私共夫婦が孫達と遊んでいれば、後期高齢者が感染するリスクがあったわけである。

一方、東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃ 以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、7 月 5 日の探索 ([前回の探索記/f](#) を参照) 以来、私は銅像探索を自粛していた。しかし、今月の 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には人出の少ない新国立競技場周辺の銅像（秩父宮像、岸清一像など）を探索することとした。ここの秩父宮像は [1\)のサイト/](#) に収録されていないが、他の銅像は収録されている。しかし、それらの基本情報が不十分なため、他の銅像も探索した次第である。本稿は、今回の探索記である。本稿では、私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。なお、私の銅像探索記の全ての記事は、[2\)のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

(2) 新国立競技場の周辺地図

今回探索した新国立競技場の周辺地図を図1上に示す。また、図1下には、旧国立競技場の中にかつて存在していた「秩父宮記念スポーツ博物館」の場所を示す。



図1.

上：新国立競技場の周辺地図、
本図は、[3\) のサイト/0](#)より借用。

下：旧国立競技場の中にかつて存在していた「秩父宮記念スポーツ博物館」の場所、

本図は、[4\) のサイト/1](#)より借用。

図1上より、神宮球場と秩父宮ラグビー場が国立競技場の傍にあることが分かる。両者共に老朽化が激しく、建替えが必要とされているようである。しかし、両者の建替えは、「新国立競技場」の建設に便乗することが出来ず、現在でも難航しているようである。私は「秩父宮記念スポーツ博物館」（以後、**本館**と書く。その

内部は4)のサイト/1で紹介されている)は「秩父宮ラグビー場」の中にあるもの
と
思っていた。多くの人々もそう思っているであろう。しかし、今回の調査によ
り、「本館は旧国立競技場のスタンド内部に広いスペースを占めていた」ことが分
かった。2020 東京五輪開催で、国立競技場が建替えになった時、予算膨張が批判さ
れ、規模が大幅に縮小された。本館はその煽りを食って、新国立競技場では1室に
縮小され、「秩父宮記念ギャラリー」との名称でやっと存続を認められたようであ
る。

それに反して、新国立競技場の南隣には「日本オリンピックミュージアム」(以
後、**新会館**と書く)と称する豪華なビルが新築されている。5)のサイト/1には、
その竣工式の記事が次のように書かれている。

① 新会館の竣工記念式典が、2019年5月16日に開催された。

②最初に新会館内で定礎式、神事が厳粛に執り行われた後、屋外の広場に場所を移して、
オリンピックシンボルモニュメント、旧会館である岸記念体育会館から移設した岸清一
像、建物名称板の除幕を実施。また、新会館オープンを記念したテープカットがオフィス
エントランス前で盛大に行われました。

③除幕・テープカットが行われた広場にはこれらのモニュメント、胸像のほか、ピエー
ル・ド・クーベルタン像、嘉納治五郎像、第18回オリンピック競技大会(1964/東京)、
第11回オリンピック冬季競技大会(1972/札幌)、第18回オリンピック冬季競技大会
(1998/長野)の聖火台レプリカなどを設置。ほかにも、オリンピック・モットー(より速
く、より高く、より強く)、オリンピックバリュー(卓越、友情、敬意・尊重)が刻まれ
た階段やベンチ、オリンピック開催地・開催年が刻まれたプレート、第9回オリンピック
競技大会(1928/アムステルダム)で日本人初の金メダリストに輝いた陸上競技の織田幹雄
さんの三段跳の記録「15.21m」を実際に体感できる舗装があるなど、オリンピックレガシ
ー継承の広場となっています。

④伊藤雅俊 JSP0 会長は、無事に新会館が竣工したことに喜びと感謝の言葉を述べ、「今
後、日本スポーツ協会(JSP0)と日本オリンピック委員会(JOC)は、令和という新しい時
代にふさわしい幅広いスポーツの推進と、我が国スポーツ界の連携、協働、発展に向けた
活動の拠点として大きな役割を果たす所存でございます」と決意を述べました。

⑤竹田 JOC 会長が「岸記念体育会館からの建て替えは、日本スポーツ協会とともに迎えま
した2011年の創立100周年記念事業の1つの集大成でもあります。新会館がオリンピッ
ク・ムーブメントの拠点となり、スポーツ界の聖地として大きく発展していくことを心か
ら願っています」と挨拶を述べました。

私は、上記の岸清一像、嘉納治五郎像、およびクーベルタン像を探索した。これ
ら3像は、1)のサイト/1に収録されているが、それらの制作者や建立日などの基本
情報が記載されていないため、今回探索した次第である。なお、**JSP0 と JOC は 2020
東京五輪開催に便乗して、国民の血税を多額盗用して、豪華な事務所ビルと過美な
モニュメントを多数建設したのが現状である。**

(3) 秩父宮記念ギャラリーの秩父宮像

私は8月6日の午前、国立競技場に着いた。その周辺は広い敷地にコンクリー
トが敷き詰められているので、暑い日には砂漠を歩くようで汗だくになりそうであ
る。しかし、当日は大変涼しかったので、快適に歩くことができた。人出もちらほ
らあったが、何しろ周辺が広いので、密状態ではなかった。秩父宮記念ギャラリー
はEゲートにあるとの調査済であったので、迷うことなく到着することが出来た。



図2. 上：Eゲートに掲示されていた案内図、下：秩父宮記念ギャラリーの入口。

Eゲートに掲示されていた案内図を図2上に示す。その一番下に、本ギャラリーが示されていた。そこは見過ごし易い場所にあった。その入口の写真を図2下に示す。素敵な案内嬢から感染症のチェックを受けて本ギャラリーに入場すると、内部

はほの暗い狭いエアコンのよく効いた小室で、秩父宮の立像と少しばかりの資料が展示されているに過ぎなかった。本像には、撮影可能の表示があったので、堂々と撮影することが出来た。

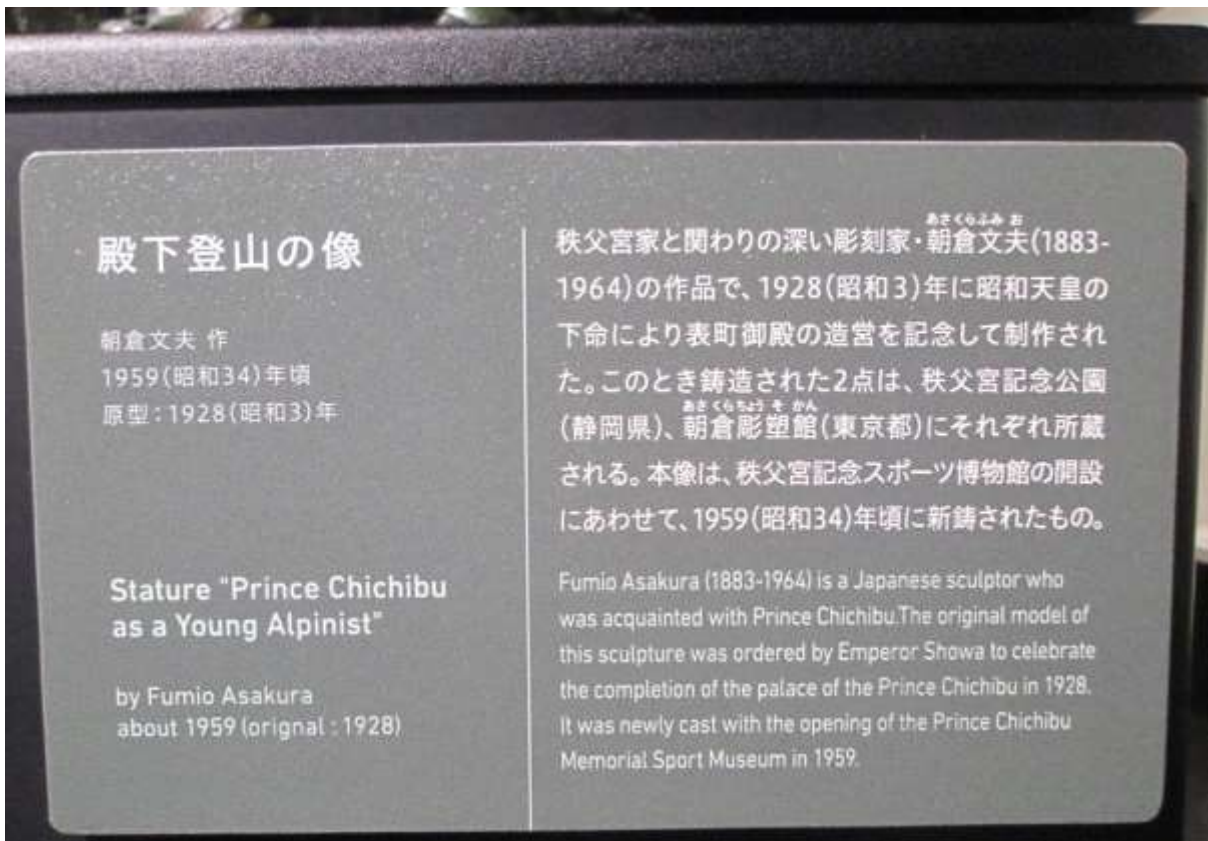


図3. 上左：秩父宮立像の全体、上右：お顔の部分、下：案内板。

立像の全体を図3上左に、お顔の部分を図3上右に示す。本像の台座正面には説明板が貼付されていた。その写真を図5下に示す。案内文には本像の来歴が大変要領よく記載されていた。本文より、本像は昭和天皇の命により朝倉文夫が制作し、「**殿下登山の像**」と呼ばれていることが分かった。



図4. 旧国立競技場のスタンド内にあった「秩父宮記念スポーツ博物館」の「秩父宮御遺品室」の内部、本図は、[6\)のサイト/0](#)より借用。

比較のために、旧国立競技場のスタンド内にあった「秩父宮記念スポーツ博物館」の「秩父宮御遺品室」の写真を図4に示す。本図より、「旧館の秩父宮展示室は、現在のギャラリーよりはるかに広がった。そこには、本像以外にも殿下の2基の胸像や多数の記念品が展示されていた」ことが分かった。なお、旧館の内部は[4\)のサイト/1](#)で紹介されている。

[7\)のサイト/x](#)には、旧館の収蔵品一覧が記載されている。そこには、日本のスポーツやオリンピック関連の貴重な資料が多数含まれている。銅像でも、以下の物が展示されていた。

秩父宮殿下登山像、秩父宮殿下25才像、秩父宮殿下27才軍服像、古橋広之進胸像、石井庄八胸像、山田敬蔵胸像。

上記の銅像は、[1\)のサイト/](#)には収録されていないので、私はこれらの写真を撮影することを狙っていた。しかし、[8\)のサイト/f](#)に次のような記事を発見した。

秩父宮記念スポーツ博物館は、この度、国立競技場改築工事に伴い、平成26年5月7日（水）から新国立競技場が完成するまでの間、長期休館させていただく事となりました。当館は1959（昭和34）年に国立競技場内に開設され、日本で唯一の総合スポーツ博物館として、秩父宮殿下ゆかりの資料や、日本の近代スポーツ発展の歴史、オリンピックの関係資料などを紹介し、開館より55年間、スポーツを文化の側面から伝える施設として歩んでまいりました。

新国立競技場は色々の騒動はあったがとっくに完成し、2021年には日本国民大多数の反対を押しきって1年遅れで東京五輪とパラ五輪が開催された。しかし、私は「秩父宮記念スポーツ博物館が再開された」との情報を得ることが出来なかった。最近になって、私は[9\)のサイト/0](#)で、以下の記事を発見した。

秩父宮記念ギャラリーが、2022年1月6日(木)に開室いたします。場所は、新宿区霞ヶ丘町10-1国立競技場内(外苑門/Eゲート)。観覧無料。休室日は月曜日(祝日の場合は翌平日)。秩父宮記念ギャラリーは、「スポーツの宮様」として日本のスポーツ振興に力を尽くされた、故・秩父宮雍仁親王(1902-1953)を記念し、秩父宮の遺品のうちスポーツに関する愛用の品々を中心に展示しています。秩父宮の没後、その遺徳を慕う多くのスポーツ関係者の協力により、1959(昭和34)年、旧国立競技場内に「秩父宮記念スポーツ博物館」が開設され、その遺品は同館の「秩父宮御遺品室」でひろく一般に公開されてきました。2014(平成26)年の競技場建て替え工事に伴って一時は閉室を余儀なくされましたが、2022(令和4)年1月に「秩父宮記念ギャラリー」としてリニューアルオープンいたします。スポーツを愛し、国立競技場や秩父宮ラグビー場などのスポーツ施設をはじめ、数多くの競技大会にその名を遺す秩父宮の人柄を偲び、遺品を通じてそのスポーツへの思いを感じていただければと思います。秩父宮記念ギャラリーの一般公開を記念し、秩父宮の関係資料に加え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の記憶を伝えるポスター、聖火リレー用トーチ、開会式衣装、競技球、入賞メダルを特別展示いたします。

私は、上記の記事を最近発見したので、早速8月6日に本ギャラリーを訪問し、秩父宮殿下登山像を探索した次第である。残念ながら、旧館にあった他の銅像は未だに公開されず、倉庫に眠っているそうである。私は次のような意見を強く主張したい。

JSP0とJOCは2020東京五輪開催に便乗して、国民の血税を多額盗用して、豪華な事務所ビルと過美なモニュメントを多数建設した。それに反し、彼等は「秩父宮記念スポーツ博物館」の再開にはとても冷たい。自分たちだけが良ければよいのであろう。

以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

秩父宮殿下登山像

設置場所：東京都新宿区霞ヶ丘町10-1国立競技場Eゲート 秩父宮記念ギャラリー

制作時期：1959年頃、原型(1928年)、

現在地に移転：2022年1月6日

制作者：朝倉文夫(1883-1964)

設置経緯：秩父宮雍仁親王(1902.6.25-1953.1.4)は大正天皇の第二皇子。本像(殿下登山の像)は、秩父宮家と関わり深い彫刻家・朝倉文夫(1883-1964)の作品で、1928年に昭和天皇の下命により表町御殿の造営を記念して制作された。このとき鑄造された2点は、秩父宮記念公園(静岡県)、朝倉彫塑館(東京都)にそれぞれ所蔵される。本像は、秩父宮記念スポーツ博物館の開設にあわせて、1959年頃に新鑄されたもの。

「スポーツの宮様」として広く国民に親しまれた秩父宮殿下が1953年に薨去。ほどなく、スポーツ関係者有志の間で「秩父宮記念館」を作ろうという動きが出るに至った。それと相前後するように、オリンピック東京誘致のために明治神宮外苑競技場を国立競技場に立て替える計画が浮上し、新たな競技場の中に秩父宮を記念する博物館が設立されることとなった。開館は国立霞ヶ丘競技場完成翌年の1959年1月6日。本館は2014年5月7日から休館。当初は建て替え後の国立競技場に移転の予定で、暫定的に足立区綾瀬の倉庫を拠点として、図書館機能など部分的なサービスを断続的に実施していた。しかし、国立競技場の総工費削減のために行われた設計変更を含む大幅な整備計画の見直しにより、新しい競技場内には「秩父宮関連資料を展示するスペース」のみを設置することとする閣議決定

が行われ、2022年1月6日に「秩父宮記念ギャラリー」としてオープンするに至った。しかし、それ以外の資料（古橋広之進像など）の公開方法や今後の再開館の予定等については未定のままである。

（3）日本オリンピックミュージアムの岸清一像

2020東京五輪に便乗して、新国立競技場の南側に豪華なビルが建設され、その中に「日本オリンピックミュージアム」などが入居している。本ビルは、渋谷区神南1丁目にあった岸記念体育館が老朽化したので、東京五輪開催の機会に当地に移転・新築したものである。その写真を図5に示す。



図5. JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE のビル

本ビルの概要は、ウィキベテア（JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE）に次のように記載されている。

①地下1階地上14階建て、延床面積1万9061㎡で、岸記念体育会館から移転したスポーツ競技団体の事務室のほか、日本オリンピックミュージアム、会議室、記者クラブ、岸清

一メモリアルルーム（14階大会議室）などで構成される。正面エントランスには岸記念体育会館から移設された岸清一の胸像が設置されている。構造面の特色として、ユニットタイプのガラスカーテンウォール533枚のうち北面の約500枚について、建設現場でカーテンウォールユニットをねじりながら取り付け、なめらかな3次元曲面のファサードをつくり出す技術である「コールドベント」を日本で始めて採用したことが挙げられる。

②2017年7月に工事が着工され、1年9ヶ月の期間を経て2019年4月30日に新会館は竣工し、5月16日に完工式が執り行われた。

③新会館の名称がJAPAN SPORT OLYMPIC SQUAREと決定し、発表されたのは2018年12月27日である。新会館には主な日本のスポーツ競技団体が入居するほか、1・2階に日本オリンピックミュージアム（2019年9月14日開業）が設置されるなど、名実ともに日本スポーツの新しい総本山として位置づけられている。



図6. 正面エントランスに設置された岸清一の胸像

本ビルの正面エントランスに設置されている岸清一の胸像を図6に示す。本像は、代々木の岸記念体育会館から移設されたものである。本像の横には碑文が設置されていた。次ページの図7上左には岸像の近接写真を、図7上右には本像背面に彫られた制作者のサインを、図7下には本碑の写真を示す。なお、本像の台座正面には「岸清一先生」と記された題字があった。

制作者のサインは「1964年明史」と読める。これに対応する彫刻家は、西田明史（1908-1999、島根県出身）である。[10\)のサイト/1](#)には、次の記載がある。

西田氏は島根県広瀬町布部（現・安来市）に生まれる。大正14年彫刻家を志し上京、内藤伸（郷土出身の木彫家）の内弟子として6年間師事、昭和6年独立作家となる。

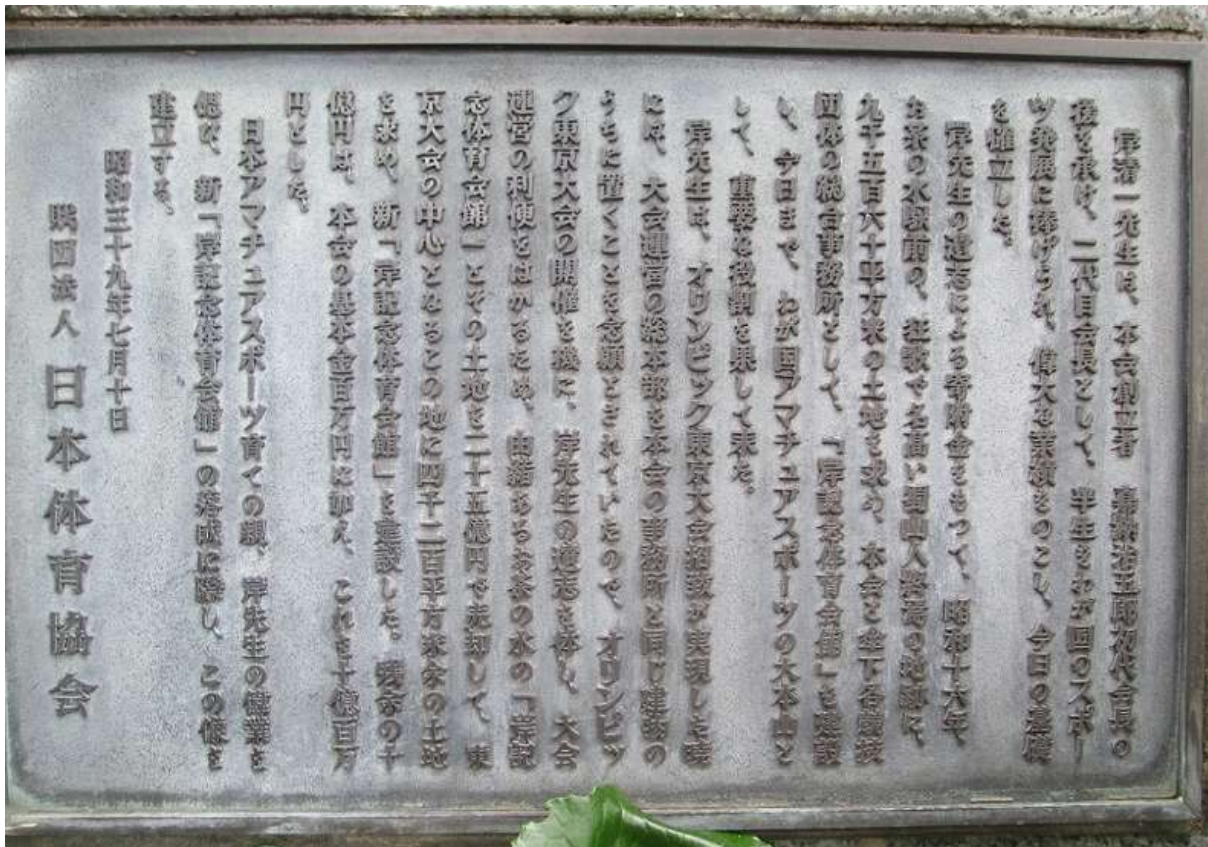


図7. 上：岸清一像、下：本像背面の制作者のサイン、下：本像横の碑文。

以上の資料などにより、岸像の概要は次の通りである。

岸清一先生像

設置場所：東京都新宿区霞ヶ丘町4-8 日本オリンピックミュージアム正面エントランス前

建立時期：1964年7月10日（東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館）

現在地に移転：2019年5月16日除幕式

制作者：西田明史（1908-1999、島根県出身）

設置経緯：岸清一氏（1867-1933）は松江市出身、東大法学部在学中は漕艇選手、卒業後は弁護士として活躍。本像に併設された碑文には次のように書かれている。

岸清一先生は、本会創立者 嘉納治五郎初代会長の後を承け、二代目会長として、半生をわが国のスポーツ発展に捧げられ、偉大な業績をのこし、今日の基礎を確立した。

岸先生の遺志による寄附金をもって、昭和16年お茶の水駅前の、狂歌で名高い蜀山人終焉の地跡に、九千五百六十平方メートルの土地を求め、本会と傘下各競技団体の総合事務所として、「岸記念体育会館」を建設し、今日まで、わが国アマチュアスポーツの大本山として、重要な役割を果たして来た。

岸先生は、オリンピック東京大会招致が実現した暁には、大会運営の総本部を本会の事務所と同じ建物のうちに置くことを念願とされていたので、オリンピック東京大会の開催を機に、岸先生の遺志を体し、本会運営の利便をはかるため、由緒あるお茶の水の「岸記念体育会館」とその土地を二十五億円で売却して、東京大会の中心となるこの地に四千二百平方メートル余の土地を求め、新「岸記念体育会館」を建設した。残余の十億円は、本会の基本金百万円に加え、これを十億百万円とした。

日本アマチュアスポーツ育ての親、岸先生の偉業を偲び、新「岸記念体育会館」の落成に際し、この像を建立する。

昭和39年7月10日 財団法人 日本体育協会

（4）JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 前庭の嘉納治五郎像とクーベルタン像

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE の前庭には、2020 東京五輪・パラ五輪を記念した豪華なモニュメントが林立している。その中に、嘉納治五郎像とクーベルタン像も設置されている。[1\) のサイト/](#)には両像の写真が収録されているので、本稿では省略する（本稿の容量は、そろそろ制限値に近づいている）。

ただ、[1\) のサイト/](#)には両像の基本情報（座主の生年・没年、制作者の氏名、建立時期など）が記載されていないので、今回はそれらの情報を調査した次第である。両像の台座正面には、題字プレートが貼付されていたので、以下にそれらの内容を示す。

日本のオリンピックの先導者 嘉納治五郎 Jigoro Kano 1860-1938

近代オリンピックの創始者 ピエール・ド・クーベルタン Pierre de Coubertin 1863-1937

また、両像の足元の土台には、制作者のサインが書かれていた。それらの写真を、次ページの図8に示す。それらには、以下のように記されていた。

嘉納像：Mitsuji 2019（松田光司）

クーベルタン像：2018 xx Yukawa（湯川隆）



図8. 上：嘉納像の制作者サイン、下：クーベルタン像の制作者サイン。

松田光司（みつじ）氏の略歴は、[11\) のサイト/](#)に次のように書かれている。

1965年：愛知県春日井市に生まれる

1989年：東京藝術大学美術学部彫刻科卒業

[12\) のサイト/6](#)によれば、湯川隆氏がクーベルタン像を制作するに至った経緯などについては、「いわき民報」（2019（令和元）年5月16日1面）に詳しく書かれているそうである。その要約は次の通りである。

東京五輪を復興五輪と銘打っている背景から、平豊間の震災復興祈願モニュメントなどを手がけ、戦後日本を代表する彫刻家・故舟越保武氏の薫陶を受けた本市在住の湯川氏に依頼したことなどがわかりました。同記事には、制作風景などの写真も掲載されています。

湯川隆氏の略歴は、[13\) のサイト/1](#)に次のように書かれている。

1961年：東京に生まれる。

1986年：多摩美術大学彫刻科卒業

以上の資料などにより、嘉納像とクーベルタン像の概要は次の通りである。

嘉納治五郎像

設置場所：東京都新宿区 日本スポーツ・オリンピック・スクエア

建立時期：2019年5月16日除幕式

制作者：松田光司（1965年、愛知県春日井市出身）

設置経緯：嘉納治五郎（1860-1938）は日本のオリンピックの先導者

ピエール・ド・クーベルタン像

設置場所：東京都新宿区 日本スポーツ・オリンピック・スクエア

建立時期：2019年5月16日除幕式

制作者：湯川隆（1961年、東京都出身）

設置経緯：ピエール・ド・クーベルタン（1863-1937）は近代オリンピックの創始者。

湯川隆氏が本像を制作するに至った経緯：東京五輪を復興五輪と銘打っている背景から、平豊間の震災復興祈願モニュメントなどを手がけ、戦後日本を代表する彫刻家・故舟越保武氏の薫陶を受けた「いわき市在住」の湯川氏に依頼した。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：
<https://www.jpnsport.go.jp/muse/tabid/312/Default.aspx?ItemId=180>
- 4) のサイト：
<http://www.mapbinder.com/Map/Japan/Tokyo/Shinjyukuku/Sports/Sports.html>
- 5) のサイト：<https://www.joc.or.jp/sp/news/detail.html?id=11471>
- 6) のサイト：<https://www.museum.or.jp/museum/2400>
- 7) のサイト：<https://www.jpnsport.go.jp/muse/Tabid/348/Default.aspx>
- 8) のサイト：
<https://www.jpnsport.go.jp/muse/Portals/0/muse/pdf/musekyukan.pdf>
- 9) のサイト：
<https://www.jpnsport.go.jp/muse/tabid/312/Default.aspx?ItemId=180>
- 10) のサイト：<https://www.art-kano.jp/60.html>
- 11) のサイト：<http://mitsuji415.blog28.fc2.com/>
- 12) のサイト：
https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000305216
- 13) のサイト：<http://artpaz.net/artst/yukawa/index.html>